



# 舞 浜

学 校 だ よ り  
第 1 4 号  
令 和 2 年 3 月 2 5 日  
浦 安 市 立 舞 浜 小 学 校  
校 長 小 野 田 政 巳

## 学校教育目標 <健康で 思いやりの心を持ち 自立できる 子どもの育成>

目指す

子どもの姿

- 心身ともに健康で、安全に行動する子
- 人に優しく、思いやりを持って行動する子
- 進んで学ぶ子

先日18日に97名の卒業生が巣立っていきました。卒業式の練習ができたのは3月2日の1回だけでしたが、子ども達は落ち着いた態度で式に参加していました。卒業証書を受け取る一連の所作や表情を見ながら、頼もしさを感じました。

本来ならば3月は、6年生は6年間を、他学年は今年度を振り返って、みんなで思い出を懐かしんだり、成長を称え合ったりする時期です。とても残念ではありますが、子ども達は休校などを物ともせず、たくましく成長していくと信じています。卒業式・修了式を実施できたことを、喜びたいと思います。

この1年間、保護者の皆様、及び地域の皆様には、たくさんのご協力をいただきました。PTA役員を始めとする保護者の皆様、保護者ボランティア、地域の方々によるご支援のお陰で、学校を何とか円滑に運営することができました。深く感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

### << 卒業式では、こんな話をしました >>

坂本光男の「きみに贈る詩」という詩の中に、次の言葉があります。

「びくびくしないで 何にでも挑むといい 尻ごみしないで 誰とでもつき合うといい  
幾つでも失敗し 時には涙を流すといい きみはそうして伸びていくんだ」

「まだまだきみには力がひそんでいる 捨てるなよ、夢を 投げるなよ、学ぶことを」

人は誰でも、必ず何かしらの才能を持っているといいます。しかし、その才能が、どこにどれだけ潜んでいるのかということは分かりません。ですから、自分から様々なことに挑戦してみることが大切です。「面白そうだ、もっと知りたい、やってみたい」ということや、「自分もあんな風になりたい」と思う人の生き方を、自分から進んで見つけ、目標を作り、挑戦してほしいと思います。そして、努力を続けてほしいと思います。そうして自分を創り、夢を実現して行ってほしいと思います。（「学ぶ」とは、「自分を創る」ことです。）

### << 修了式の話より >> ※子ども達への言葉のまま、記載させていただきます。

思いやり算を覚えていますか。「たす、助ける」「ひく、引き受ける」「わる、分ける」「かける、声をかける」。困っている人を助けること。仕事や役割を引き受けること。自分の時間や力を、分けてあげること。困っていそうな人に声をかけること。それは、簡単なことではありませんね。場合によっては勇気のいることでしょうか。面倒なことでしょうか。我慢が必要なことでしょうか。だからこそ、思いやり算ができるのは、素晴らしいことなんです。

思いやり算ができるということは、優しい心や広い心が、「面倒くさい」「誰かがやればいいさ」「自分には関係ない」といった気持ちを、押しのけることができるということだと思います。だから、思いやり算ができた時は、自分の強い心を出せた時です。

思いやり算ができる人は、優しい人です。そして、優しい人というのは、実は、心の広い強い人のことです。そんな、心の広い心の強い人が出てくるお話を聞いてください。

（この後、斎藤隆介作の物語「花咲き山」を聞いてもらいました。「時には辛いことも我慢して、誰かの為に優しいことをすると、美しい花が咲き出す。」というお話です）

皆さんも、心の広い強い人になって、舞浜小学校の花咲き山に、皆さんの花をたくさん咲かせてください。